



NPO法人

# 丸亀街づくり研究所通信

経営理念 『いのちに寄り添い 心をつなぐ』

## 《 新年度(令和 6 年度)をスタートして 》

令和 6 年度がスタートしました。当法人を日頃からご支援ご協力して下さっている皆様方のお陰であり、厚く御礼申し上げます。令和 5 年度を振り返ると様々な取り組みがありました。

自立援助ホームの丸亀おひさま荘と nature では、初めて第三者評価を受けました。外部の方に客観的に評価されることによって、自分たちがしている支援がどの程度のものなのか知ることができました。また、近日ホームページ上でも公開されますので、是非ご覧になって頂ければと思います。第三者評価をすることによって、支援の至らない点も明らかにされました。高い評価を受けることが目的にならないように、この評価をもとに子どもや若者たちにとってさらによりよい支援を目指していき、更に新拠点構想を進め、法人としての未来を明るいものにしていきたいと思ひます。

また、地域で法人を支えてくれる方に「第三者委員」という方がいます。第三者的に施設をみて下さるありがたい存在です。また、施設のスタッフには言えないことも、第三者委員さんに言う事もできます。それぞれの事業所で食事会を一緒にするなどの交流をもつことができました。

アフターケア事業においては、昨年度初めて四国の同じような事業と研修する機会がもてました。各県の取り組みは様々ですが、施設等を退所した若者にアフターの存在が当たり前にあることが大事だと改めて感じる事ができました。今年度より児童自立生活拠点事業として、対象になる若者たちが拡大されます。このように拡大される背景として施設入所になるか、ならないかに関わらず、わっかっかを必要とする若者たちにも支援が届くようになることは大きな前進ではないかと考えます。

アドボカシー事業においては、子どもアドボカシーの考えでジグソーパズルのようにお互いが補完し合いながら声を聴くことが大切だとされています。施設や児相の職員さんだけでなく、ここまいのアドボケイトだけでなく、地域の方の力もお借りしながら、子どもや若者自身の声をあげる力が一緒に高まっていけばよいと思ひます。この子どもアドボカシーの事業もモデル事業から本格事業へと移行します。まだまだ課題は山積みではありますが、アドボケイトの皆さんや受け入れしてくれる全ての皆さまと力を合わせて頑張っていきたいと思ひます。

当法人理念は「いのちに寄り添い 心をつなぐ」ですが、人の生い立ちや人生などの、いのちに寄り添うことや向き合うことは、とても大変なことで日々精一杯がんばっているスタッフに感謝しかありません。それと同時に人と人との関わりの中で心が繋がることによって、「この人なら信頼できる。話ができる。大人を信用してもいいんだ。自分はきちんと認めてもらえるんだ。」と思うようになってと思ひます。

一人ひとりの持っている素晴らしい力をチームの力に変えてお互い助け合い、尊重し合い、信頼し合う和をもって、今年度も頑張っていきたいと思ひますのでどうぞよろしくお願ひ致します。



NPO 法人 丸亀街づくり研究所 理事長 合木 啓雄

## 《 寄付をして下さった方々（順不同） 》



ありがとう

圓通寺様 オアシス丸亀様 Patisserie ciel様 中島健三様 善通寺市の子夢の家様  
子育てネットくすくす様 丸亀市社会福祉協議会様 高松市社会福祉協議会様  
ゆうゆうクラブ様 西谷由美子様 辻野結子様 たかまつ子ども食堂等ネットワーク様  
リトルマーメイド様 シードラゴン様 その他の方々… 本当にありがとうございます！！

## 《 篠原欣子記念財団様より 》

丸亀おひさま荘では老朽化した椅子12脚を買い換えさせて頂きました。利用者からは「座りやすくなった」の声がありました。大切に長く使わせて頂きます。本当にありがとうございました。



## 《 寄付の振り込み時期が4月に変更になります 》

前月号でもお伝えしておりましたが、今年度より振り込みの時期を年度初めに変更したいと思います。ご理解ご協力の程どうぞよろしくお願いいたします。また、これまで通りお振込み用紙を同封しておりますので、ご利用頂いても構いません。

また、ご不明な点がございましたらお気軽にお問い合わせください。

【正会員】年会費 10,000円

【賛助会員】個人：一口 3,000円 団体：一口 20,000円

《 振り込み先 》 ゆうちょ銀行 口座番号 01660-9-68870

《 加入者名 》 特定非営利活動法人 丸亀街づくり研究所

※ インターネット決済 (Syncable) ができるようになりました！

右のQRコードからお支払いが可能ですので、ご利用下さい。



Syncable QR コード

第38号丸亀街づくり研究所 令和6年4月1日発行  
発行者 NPO 法人 丸亀街づくり研究所  
〒763-0082 香川県丸亀市土器町東8丁目463番地1  
TEL:0877-85-3323 E-mail:ohisama@atbb.ne.jp





# 若者独立塾 丸亀おひさま荘通信

## 《 第三者評価を受審 》

丸亀おひさま荘は昨年度第三者評価を受審しました。第三者評価受審の目的は第三者である評価期間が施設を評価することにより、現状や課題を明らかにして職員の気づきを促し、施設運営の質の向上を図ることです。

利用者の権利擁護、最善の利益に向けた支援の自己評価では、項目ごとに深く考察していきました。

その中に課題もありますが、改善も必要な項目が分かり「今までおひさま荘で重きをおいて行ってきた支援は間違っていないんだ。」と感じています。子どもたちの日常生活はそれぞれ困難を抱えながら進んでいます。困っているのは子ども自身です。「何にどう困っているのか。どんな気持ちがしているのか。丁寧に話を聞き、私たちは腰を据えて見守り、感情に流されずに温かい気持ちで続けていく。」そんな支援を目指していきたいです。

若者独立塾 丸亀おひさま荘 主任 加地三千代

## 《 感謝 》

昨年度のクリスマスや年末には「クリスマスケーキを買ってあげて」や「子どもさんに使ってください」と温かい支援を頂きました。心より感謝申し上げます。おかげ様で子どもたちはクリスマスケーキを皆で囲み、初詣のおみくじで盛り上がり、おせち料理、お刺身定食を頂いて賑やかな、お正月になりました。これからも季節の巡りと共にある家庭行事を通して感性が豊かになり、心に残る経験を重ねていきたいと思えます。



若者独立塾 丸亀おひさま荘

## 《 これからも楽しみ 》

この春、おひさま荘に入所して6年一緒に過ごしていた子どもが退所し一人暮らしを始めました。「退所して一人暮らしをする」と決めつつも、楽しみもあるけど…半面、一人になることへの不安が大きく「追い出したいんやろ」という言葉に置きかえ、自分自身と戦っている姿を見せていました。

その間は本人からの言葉を待ちつつ、こちらもしかけつつ、という日々の中で1つ1つ時間はかかりましたが本人自身が決めていきました。自分で自己決定ができた子どもが一番「スゴイ！！」と思えます。更に彼女を支えた私たちスタッフも「スゴイ！！」と褒めたいなと思えます。

これからもこの子との関係は続きます。本人からどのようなサインを出してくるのかをととても楽しみにしています。多分ですが…本人よりも前に、私から「元気？」とメールを送っていると思いますけどね…



若者独立塾 丸亀おひさま荘 生活支援員 谷口智美

若者独立塾 丸亀おひさま荘

〒763-0082 香川県丸亀市土器町東8丁目463番地1

TEL:0877-85-3323 FAX:0877-43-6929

E-mail:ohisama@atbb.ne.jp



自立援助ホーム

# nature 通信

## 《 春が来た 》

令和 6 年の春が巡ってきました。春は卒業、別れという人生の岐路に立つような時であり、また新たな出会いがあり希望にあふれる季節でもあります。nature はキラキラ、ワクワク、キュンキュンした 3 名でスタートしました。ソレゾレ自分たちの春を目指して頑張ってくれています。スタッフはこの子どもたちの思いや笑顔を見守りながら自立へと巣立つ応援していますが、自立とはどういう状態なのか、



それにはどんな力が必要でその力をつけるにはどんな方法があるのかといつも模索しています。また、その実現のために nature だけでなく様々な方のご理解やご支援があることで子どもたちは社会へ羽ばたいて自分で生きる力を蓄えていけるのだと実感しています。本当に感謝の一言に尽きます。今年度も、昨年度に引き続き応援をよろしく願います。 自立援助ホーム nature 施設長 野口 孝子

## 《 一歩ずつ前へ 》

nature に来る前は、憂鬱な毎日だったけど、職員さんが気軽に話や相談に乗って下さったり、他の子たちと沢山話をして笑ったりしました。また成人の祝いやクリスマスパーティーなどのいろいろな行事をして下さり、楽しいと思えるような日々になりました。これから先のことを考えるとすごく不安で落ち込む事もあると思うけど、周りの人の力を借りながら一歩ずつ前へ進んでいきたいです。 利用者 20歳女子



## 《 人生の先輩からの知恵袋 》

昨年 11 月から nature で生活支援員として勤務させて頂いている松永と申します。週 3 回午前中の勤務のため接するのは朝食の時間でした。思春期の会話のキャッチボールが出来ず、こうあるべきだと観念的に考えてしまいがちでした。しかし、きっかけをくれたのはクリスマス会の子どもが明るく面白く話してくれたことで話がしやすくなりました。勤務が変わり宿直の方になってからは、日常の話ができるようになり、食事中的スマホの事、ゴミ出しの事、靴の脱ぎ方、料理の事などを注意したりしますが、笑いながら一緒にすることで自分から気がついて直してくれるようになりました。私は nature で日常の作法、季節毎の節句等を「人生の先輩からの知恵袋」として、時には面白く優しく教えてあげてられたらと思います。人と人とのご縁があって生かされていることを知り、何に対しても感謝の気持ちを持った人に成長してほしいと思います。利用者さんに教えられることが多いのですが、一緒に手を取り合って作っていきたいと思います。 自立援助ホーム nature 生活支援員 松永 弥生



自立援助ホーム nature (なちゅれ)

〒763-0082 香川県丸亀市土器町東 7 丁目 208 番地 101 号室

TEL:0877-85-3375 FAX:0877-85-3376

E-mail:nature@atbb.ne.jp

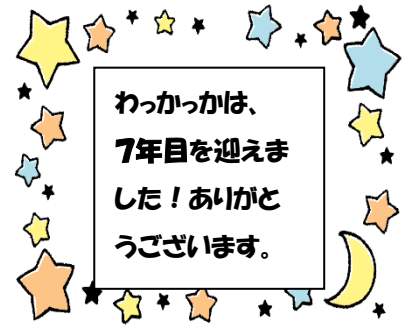


アフターケア事業所

# わっかっか通信

## 《 つながる想い 》

3月と4月は何かとあわただしいですが、特に3月は施設を退所して、それぞれ旅立つ若者が多い時期です。毎日が慌ただしく感じています。そして3月は「わっかっか」に登録をする若者が増える時期にもなります。香川県を離れる若者は他県のアフターケアに、また、他県から香川県に来る若者もいます。「あなたは一人ではないよ。あなたを気にかけている大人は、たくさんいるよ。頼っていいんだよ」というメッセージを込めて、温かく迎えたり送り出したりしています。この時期は慌ただしい「わっかっか」ではありますが、この時期にしか味わえない気持ちがあります。新たに「わっかっか」に登録した若者と過ごす時間を考えると楽しみにもなります。「これからその子とどんな時間が一緒に過ごせるのだろう？」と考えるとワクワクもします。これからも若者と一緒に考えたり悩んだりして、共に成長をしていきたいと思っています。



アフターケア事業所 わっかっか 主任補佐 大内 実千代

## 《 開放日 》

4月は新しい出発の門出であるとともに、ちょっと寂しいお別れもあるかもしれません。一人ひとりの中に、その年輪の数だけの出会いや経験があると思います。「なんで、どうして？」と一人で悩むことはたくさんあると思いますが、そんな時に仲間がいることや相談できる人がいることを思い出してください。「人と人とのつながり」は、「明日もまた元気に生きよう」という気持ちや勇気を与えてくれます。「感謝、ありがとう」という言葉をこの一年沢山の若者たちから聞きました。「自分を大切にすること」は、「人を大切にすること」だと思っています。「自分を大切にすること」は、自分の好きなことをすることではありません。互いの気持ちを尊重しながら互いに励まし合い、一步一步と歩み続けることだと思っています。あるお母さんが「生まれた赤ちゃんと一緒に毎日成長しないといけないと思う。」と話してくれました。

生まれたばかりの赤ちゃんは、この一年間でどれだけ成長するのでしょうか…毎日毎日新しく経験し、失敗しても新しいことに挑戦し続けます。できるようになった時には誰かに褒められることがどんなに嬉しいことでしょうか！大人になってもそれは同じだと思います。後ろを振り向くのではなく、前を向いて「一歩進んで三歩下がる」を繰り返しながら少しずつ成長し続ける。それがどんなに大変なことであっても必ず将来の道が開けることを信じて「これからも皆さんと一緒に私も成長したいなあ。」と思っています。わっかっかの開放日は、そんな色々な気持ちを出し合って明日に向かって仲間と一緒に成長すること、またはエネルギーを出し合える所であれたらなと思っています。

アフターケア事業所 わっかっか 居場所スタッフ 織野 順子



アフターケア事業所 わっかっか たかまつ・まるがめ  
〒760-0063 香川県高松市多賀町2丁目11-13 2階  
TEL:087-802-6681 FAX:087-802-6682  
E-mail:wakkakka2017@air.ocn.ne.jp



アドボカシー事業所

ここまいつうしん

## 《 子どもの心に届く取り組みを目指して 》

こんにちはアドボケイトの、にしちゃんです。ここまい事業所で初回から活動に参加しています。でもなかなか慣れることはなく、いつも緊張感があります。「大丈夫！」と自分でやる気スイッチを入れて笑顔で子どもたちと向き合っています。子どもたちに挨拶したら、アドボケイトに関心をもってもらえるように、権利の話や「みみうさ」の動画を見てもらっていますが、「ちょっとマンネリ化しているのかな？子どもの心に届いているのかなあ」と感じるようになりました。「でも私の役割じゃないから・・・」と思っていたのです。ところが昨年秋に私がアドボケイトの話子どもにする機会があり、心に届く取り組みについて真剣に考えるようになりました。今年になって国分寺会館での研修会に参加しました。議題の一つに「アドボケイトに関心をもってもらう為のツールについて」がありました。紙芝居、パペット、パネルシアター等の発表があり関心のある仲間のアドボさんがあることに気づき、とても嬉しくて勇気をもらいました。最近、自分で作ったウサギのぬいぐるみを使って「アドボケイトってね・・・」と子どもたちとの対話を意識して話をしています。振り返りの中で参加したアドボさんから率直な意見をもらえるのがありがたいです。これからも、子どもとの対話を大切に「みみうさ劇場」を続けながら、子どもたちが心を開いてアドボケイトに関心を持ってくれることを目標に仲間のアドボさんたちと取り組みたいと思います。次回、皆さんとお会いできることを楽しみにしています。人見知りの私ですが、今度会ったときは「にしちゃん」と声をかけてもらえるのが嬉しいです。



©2022 JaSCAS.

All Rights Reserved

アドボカシー事業所 ここまい 子どもアドボケイト 西谷 由美子

## 《 令和6年度より県の事業としてスタートします 》

改正児童福祉法が令和6年4月1日に施行されるにあたり、本事業もモデル事業から県が実施する事業に切り替わります。子ども自身が権利の主体であるという事を明確に法律で定められ、意見表明だけでなく子どもの権利擁護に係わる対応が大きく動いていきます。その中の一つの柱の事業として「意見表明等支援」が位置付けられており、関心も高まってきています。実践を重ねる中で、私たちひとりひとりの権利感覚と、子どもたち自身の権利意識、そして社会の子どもの権利への理解が深まらなければ、法律で描かれている子どもの権利が保障された社会の実現は難しいと感じています。「アドボケイトは、生き方そのもの」と表現されることがありますが、どのような意識を持ち、どのような生き方をするのか、日々アップグレードさせながら向き合いたいと思っています。



←ここまいの Facebook では、アドボカシーに関する研修会など情報を発信しております。ぜひご覧ください。

アドボカシー事業所 ここまい 主任 越智 萌

アドボカシー事業所 ここまい

〒760-006 香川県高松市多賀町2丁目11-13 2階

TEL:087-802-5727 FAX:087-802-6682

E-mail:cocomai2022@atbb.ne.jp